

推薦入試から特色選抜へ

「特色選抜」の目的
 志望学科への興味や関心及び適性を有する者を選抜するという、これまでの推薦入試の趣旨を今後も継承しつつ、生徒が主体的な学びに向かう力の育成と中学校までの基礎学力の確かな定着を図り、特性や個性の一層の伸長につながる選抜とする。

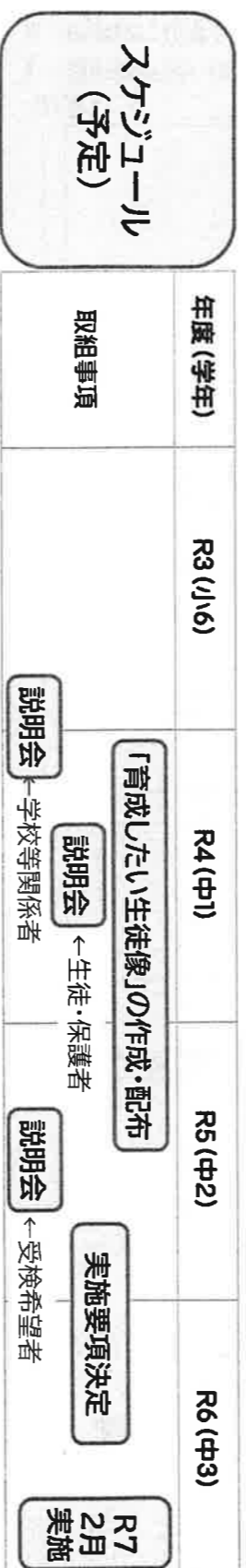
現行の推薦入試の課題

沖縄県高等学校入学者選抜制度のあり方について(報告書)より
 平成30年12月 沖縄県立高校入学者選抜制度改革に関する検討委員会

- ◆ (現行推薦入試制度は) 早期合格の手段としての傾向が強く、本来の趣旨が活かされていないとの懸念
- ◆ 推薦合格内定者の一部に、その後の学習意欲の低下が見られ、一般入試に向けた学習環境に影響を及ぼすこともあり、義務教育段階の学習内容の確かな定着に課題
- ◆ 各中学校によって推薦基準が異なることによる不公平感の指摘

「特色選抜」の基本方針

- ① 生徒が自ら出願できる** (NEW)
 ・ 学校推薦ではなく、生徒本人による出願とすることで、意欲的な学習の態度や主体的な進路決定を促す。
 - ② 生徒の特性や個性を伸ばす** (UP)
 ・ 受検生の志望校を決定するための資料として、各学校・学科の特色をより明確に示すための「育成したい資質・能力」や「目指す生徒像」を作成する。
 - ③ 学力検査を全員受検する** (NEW)
 ・ 義務教育段階の学習内容の確かな定着を図る。
 - ④ 受検機会をこれまでどおり確保する** (NEW)
 ・ 現行では推薦入試と一般入試で最大2校へ出願する機会があり、受検機会を維持する。
- ※ICT活用を推進する
 ・ 出願システムや採点業務の効率化、複雑化する処理データの一元化等が必要となる。



特色選抜について - 入試制度はどのように変わるのか -

県立学校教育課

